

今週（12月2日から12月6日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続きビッドサイドの資金調達ニーズの強い展開となった。
出会いレートの水準は、週を通して0.226～0.227%が中心となったものの、一部試し取りにより0.275%での出会いも散見された。そのため、加重平均レートは、2日(月)から4日(水)までは0.227%の横這いとなったが、5日(木)は試し取り要因により0.232%まで上昇する展開となった。6日(金)は週末3日積みとなった事により、通常の取引のみに戻ったため再び0.225～0.227%程度での出会いが中心となった。
ターム物に関しては、1W～3M程度での引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、2日(月)に国債発行を主因に2兆円減少し541兆円程度でスタートした。その後も国債発行や法人税・年金保険料揚げによる減少が続き、4日(水)時点で529兆円弱まで大きく減少する展開となった。5日(木)は国債買入れオペ要因により僅かに増加したものの、6日(金)の30年債発行を受けて再び減少した結果、529兆円程度での着地見込みとなった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、週を通して投資家・業者ともに積極的なオファー姿勢が見られたため、0.235～0.25%近辺で安定的に推移する展開となった。
SC取引の個別銘柄では、2Y440～467回、5Y150～174回、10Y355～376回、20Y180～190回、30Y65～84回、40Y13～17回などで引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全ゾーン横ばい圏で推移した。
6日(金)に実施された3M物入札は、前回債比でレートが上昇する結果となったものの、結果発表後のセカンダリーマーケットでは小じっかりとした推移となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、電気機器、石油、鉄鋼、化学など複数の業態が大型発行を実施した。
市場残高は、週を通して概ね26兆円台前半で推移した。
発行レートについては、引き続き0.25%以上で推移し、銘柄により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・％）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 （億円）
12/2（月）	38,513.02	1.075	150.19	0.227	0.240	5,411,400
12/3（火）	39,248.86	1.075	149.90	0.227	0.240	5,375,200
12/4（水）	39,276.39	1.050	150.35	0.227	0.240	5,288,800
12/5（木）	39,395.60	1.065	150.34	0.232	0.240	5,298,200
12/6（金）	39,091.17	1.050	149.98	0.227	0.244	5,290,300

来週（12月9日から12月13日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/9 (月)	7-9月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 10月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 10月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省13:30) 11月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 35,000億円 12/10発行			10月の米卸売売上高
12/10 (火)	11月のマネースtock(日銀 8:50)	5Y 23,000億円 12/11発行	エネルギー借入 7,430億円 12/20借入		
12/11 (水)	11月の企業物価指数(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管8:50)				11月の米消費者物価指数 11月の米財政収支
12/12 (木)		流動性供給 6,500億円 12/13発行			ECB定例理事会 11月の米生産者物価指数
12/13 (金)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)	TB3M 43,000億円 12/16発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/9 (月)	▲ 1,200	▲ 10,100	▲ 11,300	CP買入 社債買入 国債補完	▲ 100 ▲ 200 4,100		3,800	▲ 7,500	TB3M発行▲43,000償還46,000
12/10 (火)	▲ 500	2,000	1,500				0	1,500	TB6M発行▲35,000償還37,000
12/11 (水)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000	全店共通	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 35,000	5Y発行▲23,000
12/12 (木)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	源泉税揚げ
12/13 (金)	▲ 2,000	75,000	73,000	貸出増加支援	▲ 54,700		▲ 54,700	18,300	年金定時払い 流動性供給▲6,500 交付税借入▲13,000期日13,000
週 間 合 計	▲ 7,700	38,900	31,200	—	▲ 58,900	0	▲ 58,900	▲ 27,700	

12/9は日銀予想、12/10以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズの強い展開が見込まれ、レートは0.227%近辺での推移が予想される。債券レポGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化が見られなければ、0.23～0.25%程度の水準で推移することが予想される。短国市場は、9日(月)に6M物、13日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、五・十日発行を控えており、発行案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では9日(月)に7-9月期のGDP2次速報、11日(水)に11月の企業物価指数、10-12月期の法人企業景気予測調査季報、13日(金)に12月調査の日銀短観、海外では、11日(水)に11月の米消費者物価指数、12日(木)にECB定例理事会などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入